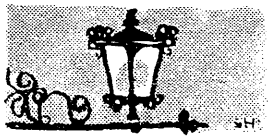
社会保障の25周年



（フランス）

フランスの政府刊行物「フランス社会問題時報」(Revue française des affaires sociales) は，その71年の第1号で「社会保障の25周年」と題する特集号を出した。今日のフランス社会保障がその第一歩を踏み出す時点となった1945～46年からちょうど25年が経過したわけであり，この25年を記念して特集号が出されたのである。

解放直後の45年10月4日と9日に，ド・ゴール将軍の率いるフランス共和国臨時政府は社会保障に関する2つのオルドナンス (ordonnances) を公布している。その1つは「社会保障の組織に関するオルドナンス」であり，もう1つは「社会保障の制度的骨組みに関するオルドナンス」である。この2つのオルドナンスはいずれもいわゆるフランス社会保障のラロック・プランをもとにするものであるが，前者によって社会保障の一般的，原則的事項が定められ，また後者によってそれまで既に存在していた社会保険，家族手当，および労働災害補償などに関する諸法令が45年から46年にかけて一つの社会保障へ体系化されることになった。

それから25年が経過したわけであるが，その間のフランス社会保障の歴史はけっして単調なものではなかった。そこでこの特集号は，まず第1章「社会保障とその発展」で，この25年間のフランス社会保障の歩みを回顧している。25年間は4期（44～51年，51～60年，60～66年，66～70年）に分けられており，それぞれの時期について，初代の社会保障総務長官で今日のフランス社会保障の創設に貢献したP・ラロックや，2代目の社会保障総務長官でラロック社会保障計画の本格的な実行に当たったJ・ドゥブレなど，25年間にわたるフランス社会保障の発展に直接関係した人びとが執筆している。

第2章「社会保障とその現状」では，社会保障の一般制度をはじめ特別制度，農業の制度あるいは自営業者の疾病保険制度などについて，25年間に到達せられた現段階におけるそれぞれの実際の機能と問題点などがとりあげられ，第3章「国民生活における社会保障」で，経済的観点と保健の観点からする社会保障の分析がおこなわれ，最後に第四章「フランス社会保障の国際関係」で，ヨーロッパ共国体の社会保障問題，およびフランスが締結している2国間あるいは多国間の社会保障国際協定の問題がとりあげられている。

Le 25e aniversaire de la sécurité sociale, *Revue française des affaires sociales*, No. 1, 1971, pp. 1-350.

（上村政彦，健保連）